Ⅱ－１　環境特性とアメニティづくりの現況

(1)　福井県の概要

1）沿　　革

古代、北陸地方は『若狭』および『越（こし）』とよばれ、特に、現在の本県にあたる越前と若狭の地は北陸道の入口にあたり、いち早く畿内文化が波及してきました。県下の古墳の数が、本県以北の各県と比べてはるかに多いのも、そのことを物語っています。

また、角鹿（現在の敦賀市）や三国では、大陸沿海州付近におこった渤海国の使節の送迎が行われるなど、大陸文化の流入もみられました。

大化前代の国造制では、本県にあてはまる地域には若狭、高志、三国、角鹿の４国造が行政体としておかれていましたが、大化の改新によって国郡制が確立し、越前、若狭の２国になりました。若狭については、今と変わりませんが、越前は現在より広く、今の石川県を含んでいました。その後、平安時代までに、能登国、加賀国が越前から分離されました。鎌倉時代以降は、それぞれに守護がおかれ、戦国時代には、越前を朝倉氏が、若狭を武田氏が治めました。

江戸時代に入ると、徳川幕府は越前には結城秀康を、若狭には京極高次を封じました。その後、越前は削封、分封、移封が相継ぎ、最終的には、福井に松平氏、丸岡に有馬氏、大野に土井氏、勝山に小笠原氏、鯖江に間部氏、敦賀に酒井氏が封を受けました。

明治２年６月版籍奉還とともに、８藩が旧領地に置かれましたが、明治４年の廃藩置県により、福井県（同年12月に足羽県と改称）と敦賀県が設けられました。明治６年１月、足羽県は敦賀県に合併され、越前・若狭の地が１つの行政区として、初めて統合されたものの、明治９年８月には、敦賀県が廃止され、嶺北７郡は石川県に、嶺南７郡は滋賀県に分属しています。そして、明治14年２月７日、藩制時代の越前、若狭の地をもって福井県を建て、ここにおいて、『越山若水』として親しまれる自然環境の豊かな福井県が誕生し、現在に至っています。

アメニティ・トピックス

〈万葉集にも詠まれた福井の自然美／〉

本県の自然環境の美しさは、遠い昔から多くの人々に親しまれてきました。

このようなすぐれた自然を背景として、県土のアメニティづくりを考えていくことが必要です。

“若狭なる　三方の海の　はま清み
いゆきかへらひ　見れどあかぬかも”
（万葉集:詠み人知らず）



2）位　　置

本県は、本州日本海側のほぼ中央に位置しており、北は石川県に接し、東南から西南にかけては岐阜県、滋賀県、京都府に隣接しています。

県土の総面積は4,187.33㎢であり、全国総面積の1.1％を占めています。（昭和63年10月１日現在）

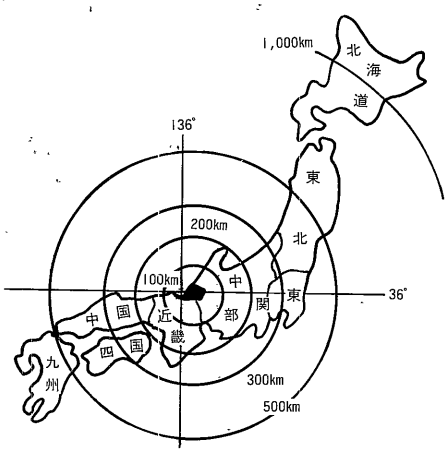
極　東	大野郡和泉村油坂峠東南　1,550m	東経136度50分 6秒2
極　西	大飯郡高浜町鎌倉西北　500m	東経135度27分 7秒6
極　南	遠敷郡名田庄村染ケ谷東南　2,000m	北緯 35度20分27秒7
極　北	坂井郡芦原町北潟見当山北　750m	北緯 36度17分34秒7

3）地　　勢

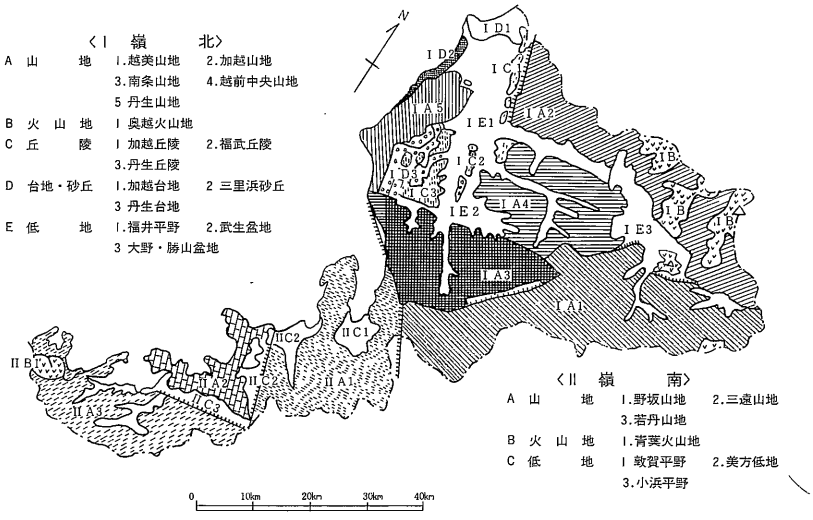
敦賀市の北東にある山中峠から木ノ芽峠を経て、栃ノ木峠に至る峰で嶺北、嶺南といわれる２つの地域に分けられ、地形や気候の面でそれぞれ異なった特徴を有しています。

嶺北地域は、九頭竜川、日野川、足羽川の土砂の堆積による福井平野を中心に、大野、勝山盆地、九頭竜川中流河谷や丹生山地、越前中央山地、岐阜県境に広くつらなる越美山地、石川県にそびえる白山火山地とそれに続く加越山地等から形成されています。

嶺南地域は、変化に富むリアス式海岸が続き、断層によって残された山地と平地が交互に並列しており、各湾や入江の奥には、地溝を埋めた狭い堆積地が、敦賀、美方、小浜の小平野を形づくっています。



福井県の位置

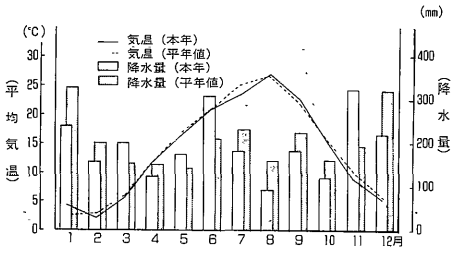


福井県地形区分図

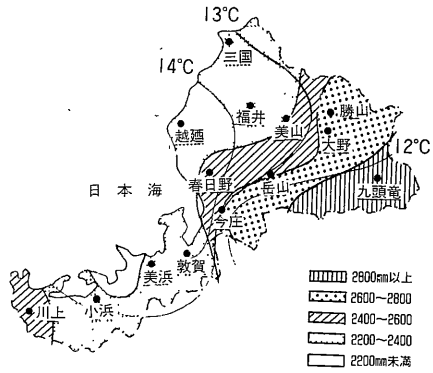
（資料：福井県自然環境保全基礎調査報告書－福井県－）

4）気　　候

日本海に面し、北陸の西端に位置している本県は、冬期に曇りや雪の多い日本海式気候に属しています。しかし、地形や季節風の影響の違いなどにより、嶺南地域は山陰海岸型の気候で、冬の降水量は少なく温暖ですが、これに対して、嶺北地域の奥越では、北陸山地型の気候で気温は低く、冬期の降雪が多くなっています。また、福井平野は、海岸に近い位置にありながら、海の影響の少ない内陸性気候を示しています。



気温、降水量の月変化図(昭和63年)



平均気温、降水量の分布図(昭和63年)

(資料：福井地方気象台)

5）交　　通

本県における交通体系は、陸上交通においては北陸自動車道や国道8号、27号を主軸とした道路網が形成され、鉄道ではＪＲ北陸本線を中心に小浜線、越美北線および地方鉄道によって交通網が形成されています。

また、現在、福井空港の拡張整備をはじめとして北陸新幹線や近畿自動車道敦賀線、中部縦貫自動車道などの建設整備計画が進められており、これらを中心とした高速交通体系の確立が急がれています。

アメニティ・トピックス

〈ＴＡＫＥＤＡじょんころファンタジア〉

丸岡町竹田地区の「光と音のゆきまつり」ＴＡＫＥＤＡじょんころファンタジアは昭和61年以来５回を数え、馬ぞりやスノーモービル、そば作り体験など、毎年多彩な催しものをくりひろげ、町内外から多くの家族連れがつめかけ、雪に親しんでいます。



〈粟田部の蓮萊祀曳き廻し〉

この神事は今立町粟田部の岡太神社を中心に同町ゆかりの継体天皇の遺徳をしのんで、昭和59年に再興されて以来毎年行われています。五穀豊穣を願った飾り物を乗せた、修羅というそり状の山車を引く「曳き廻し」は、雪の中を粟田部音頭にあわせて、地区の人たちが綱を引いて、町内を練り歩きます。



6）社会状況

【人　　口】

本県の人口は、昭和45年まで減少傾向を示していましたが、その後は増加傾向に転じ、昭和63年度の推計人口は822,462人（全国で45位）となっています。

年齢別構成においては、年少人口比率が20.0%、生産年齢人口比率が66.3%、老年人口比率が13.7%となっており、特に老年人口比率は、全国平均の11.2%に比べて2.5ポイント高く、平成12年には県民の5.5人に１人が高齢者（構成比18.4%）となる本格的な長寿社会を迎えるものと予想されています。

また、人口集中地区（ＤＩＤ地区）における人口は、昭和60年10月１日現在で293,664人で、総人口の35.9%を占めています。

人口集中地区（ＤＩＤ地区）における人口、人口増減

地域	人口		昭和55年～60年の人口増減（△は減少）		面積	人口密度
	昭和60年	昭和55年（組替）	実数	率（%）	(km²)	（1km²当たり）
					昭和60年	昭和60年
福井県　ＤＩＤｓ	293,664	293,336	328	0.1	55.3	5,310.4
市部　ＤＩＤｓ	260,131	260,036	96	0.0	48.0	5,419.4
郡部　ＤＩＤｓ	33,533	33,301	232	0.7	7.3	4,593.6
福井市　ＤＩＤｓ	143,981	142,169	1,812	1.3	23.5	6,126.9
敦賀市　ＤＩＤｓ	32,385	32,390	△ 5	△ 0.0	6.5	4,982.3
武生市　ＤＩＤｓ	22,993	24,128	△1,135	△ 4.7	4.8	4,790.2
小浜市　ＤＩＤｓ	13,650	14,309	△ 659	△ 4.6	3.0	4,550.0
大野市　ＤＩＤｓ	17,571	17,623	△ 52	△ 0.3	3.4	5,167.9
勝山市　ＤＩＤｓ	12,326	12,820	△ 494	△ 3.9	2.6	4,740.8
鯖江市　ＤＩＤｓ	17,225	16,596	629	3.8	4.2	4,101.2
松岡町　ＤＩＤｓ	5,264	5,457	△ 193	△ 3.5	1.4	3,760.0
三国町　ＤＩＤｓ	9,637	9,046	591	6.5	1.9	5,072.1
金津町　ＤＩＤｓ	5,395	5,497	△ 102	△ 1.9	1.2	4,495.8
丸岡町　ＤＩＤｓ	7,719	7,569	150	2.0	1.7	4,540.6
春江町　ＤＩＤｓ	5,518	5,732	△ 214	△ 3.7	1.1	5,016.4

（資料:各年国勢調査）

【経済・産業】

■県内総生産

本県の経済は、国の経済が安定成長へ移行する中で、昭和53年度に１兆5,880億円（昭和60年価格）であった県内総生産は、昭和63年度には２兆3,440億円となり、この間、国の実質年平均成長率とほぼ同程度の4.0%の発展を遂げています。

産業別の県内総生産では、第一次産業の比重の減少傾向が続き、第三次産業の比重が増加しています。特に、電気業、卸小売業、運輸通信業などネットワーク部門が高い伸びを示しています。

■一人当たり県民所得

本県の一人当たり県民所得は、昭和53年度の137万円（名目）から昭和63年度には、222万円となり、85万円増加しました。この間、一人当たり国民所得に対する比率は、92%から94%へと２ポイント上昇しています。

■就業構造

本県の就業者数は、昭和60年の国勢調査によると43万４千人であり、15歳以上人口64万１千人に占める割合（就業率）は、68％と高い値を示しています。

産業別にみると、第一次産業の就業者数の減少が著しく、第三次産業の増加が目立っています。第二次産業では、構成比が39.9％と全国平均の33.1％よりも高くなっており、第二次産業の構成比は全国的に低下傾向であるのに対し、本県では増加傾向にあります。

■第一次産業

おいしい米として全国的に有名な「コシヒカリ」の生誕県である本県は、農用地に占める田の面積割合は91.1％であり、全国平均の54.5％と比べて非常に高い米作県となっています。

一方、近年では都市近郊農業として野菜、果樹、花き栽培が進むとともに、地域林業と畜産業の活性化、栽培漁業等の水産技術の開発・普及が進められています。

■第二次産業

本県の地場産業としては、基幹産業としての繊維をはじめ、機械、化学・プラスチック工業などがあげられますが、特に、合成繊維織物や眼鏡枠などでは全国一位の生産量を誇っています。

また、本県の伝統工芸品産業としては、今立町の越前和紙や鯖江市の越前漆器、小浜市の若狭漆器・塗箸・若狭めのう、武生市の越前打刃物、宮崎村や織田町の越前焼などがありますが、伝統を守る一方で、現代の感覚にマッチした作品づくりなどの工夫が進められています。

■第三次産業

本県の商業・サービス業は、県都の福井市をはじめとする各都市を中心に、店舗の集積がなされています。最近では、コンベンションやリゾートを核に、観光等の第三次産業活性化の動きが顕著になってきています。

アメニティ・トピックス

〈一村一品運動（名田庄商会）〉

名田庄村には、村おこしの拠点として、全国に先がけて第三セクター方式による商会が設立されています。この商会の出資は村、農協、森林組合、商工会、木材組合の五団体（資本金200万円）からなっており、村は資金面で、経済団体からは資金と物づくり、民間は現場の第一線といった、文字通り村ぐるみの第三セクターとなっています。

主な事業は、特産品開発、生産販売、市場調査、住民所得の向上、就業機会の増大と幅広く、村民会社といった認識にたって、事業活動が進められています。

〔全国からみた福井県〕

	項目	全国		福井県		全国順位	出典
自然環境	面積(63年次)	377,719.36	㎢	4,187.33	㎢	34	国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調べ」
	森林面積割合(60年次)	67.34	%	75.02	%	12	農林水産省「林野面積統計」
	可住地面積割合(62年次)	32.0	%	24.7	%	36	国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調べ」
	自然公園面積割合(63年次)	14.0	%	14.6	%	22	環境庁自然保護局「自然公園の面積」
	年平均気温(62年次)	−		14.6	℃	34	気象庁「気象庁年報」
	年平均相対湿度(62年次)	−		74.0	℃	8	気象庁「気象庁年報」
	日照時間(62年次)	−		1,735	時間	39	気象庁「気象庁年報」
	年間降水量(62年次)	−		1,645	㎜	17	気象庁「気象庁年報」
人口・世帯	人口(63年次)	122,782,930	人	822,462	人	45	総務庁「推計人口」
	人口密度(1㎢当たり)(63年次)	329.3	人	196.2	人	34	総務庁「推計人口」
	人口増加率(63年次)	0.425	%	0.082	%	28	総務庁「推計人口」
	転入率(63年次)	2.555	%	1.587	%	42	総務庁「住民基本台帳人口移動報告年報」
	転出率(63年次)	2.555	%	1.806	%	42	総務庁「住民基本台帳人口移動報告年報」
	老齢人口比率(65才以上人口)(63年次)	11.2	%	13.7	%	20	総務庁「推計人口」
	核家族世帯割合(60年次)	62 5	%	51.5	%	45	総務庁「国勢調査」
	高齢者(65才以上)のいる世帯割合(60年次)	25.4	%	36.4	%	5	総務庁「国勢調査」
経済	1人当たり県民所得(61年次)	2,238	千円	2,063	千円	20	経済企画庁「国民・県民経済計算年報」
	県内総生産(61年次)	332,235,671	百万円	2,182,330	百万円	40	経済企画庁「国民・県民経済計算年報」
	農家1世帯当たり農家所得(62年次)	5,611.9	千円	7,548.1	千円	4	農林水産省「農家経済調査報告」
	農業粗生産額(就業者1人当たり)(62年次)	173.5	万円	157.6	万円	25	農林水産省「生産農業所得統計」
	林産物素材生産量(63年次)	30,930	千㎥	212	千㎥	35	農林水産省「木材需供量調査」
	海面漁業漁獲量(63年次)	11,259,202	t	25,362	t	37	農林水産省「漁業生産統計調査」
	製造品出荷額等(従業者1人当たり)(62年次)	2,361.0	万円	1,622.1	万円	34	通商産業省「工業統計調査」
	商業販売額(従業者1人当たり)(59年次)	4,359.1	万円	2,843.8	万円	16	通商産業省「商業統計調査」
	一世帯当たり電灯年間使用量(63年次)	3.77	千kwh	4.81	千kwh	1	電気事業連合会「電気事業便覧」
	月間実労働時間数(63年次)	175.9	時間	183.1	時間	4	労働省「毎月勤労統計調査年報」
居住環境	持ち家比率(63年次)	61.4	%	79.5	%	5	総務庁「住宅統計調査」
	1人当たり畳数(持ち家主世帯)(63年次)	10.75	畳	11.54	畳	14	総務庁「住宅統計調査」
	水道普及率(63年次)	94.2	%	91.1	%	29	厚生省「水道統計」
	下水道普及率(63年次)	40.0	%	31.3	%	13	日本下水道協会「下水道統計」
	人口1000人当たり小売店数(飲食店以外)(61年次)	14.19	店	16.91	店	9	総務庁「事業所統計調査報告」
	総面積1㎢当たり道路実延長(63年次)	2.95	km	2.18	km	40	建設省「道路統計年報」
	主要道路舗装率(63年次)	92.8	%	94.5	%	29	建設省「道路統計年報」
	生活道路(市町村道)舗装率(63年次)	61.6	%	81.1	%	5	建設省「道路統計年報」
	人口1000人当たり自家用乗用車台数(63年次)	248.1	台	278.0	台	11	運輸省「自動車保有車両数」
	人口1人当たり都市公園面積(62年次)	5.43	㎡	10.88	㎡	3	建設省「都市緑化年報」
	人口100万人当たり公民館数(62年次)	142.6	館	256,8	館	17	文部省「社会教育調査報告書」
	人口100万人当たり図書館数(62年次)	14.7	館	43.8	館	2	文部省「社会教育調査報告書」
	人口100万人当たり体育館数(60年次)	52.0	館	115.0	館	8	文部省「我が国の体育・スポーツ施設」
	人口100万人当たり博物館数(62年次)	6.0	館	9.7	館	10	文部省「社会教育調査報告書」
健康・安全	人口10万人当たり一般病院数(63年次)	7.3	所	11.1	所	8	厚生省「医療施設調査・病院報告」
	人口10万人当たり医師数(63年次)	157.7	人	147.0	人	26	厚生省「医師、歯科医師、薬剤師調査」
	人口10万人当たり消防ポンプ自動車等現有数(63年次)	93.1	台	132.2	台	21	消防庁「消防年報」
	人口10万人当たり交通事故発生件数(63年次)	500.5	件	556.1	件	16	警察庁「交通統計」
	人口10万人当たり交通事故死傷者数(63年次)	621.6	人	749.3	人	11	警察庁「交通統計」